

『ザ・バンク 堕ちた巨像』 原題 THE INTERNATIONAL 2009



映画作品の紹介

塚田三千代(映画アナリスト)

本映画は 1990 年代に破綻した国際銀行 BCCI の実話をヒントにして製作された。主人公インターポール捜査官のルイ・サリンジャーたちが、国際的な巨大銀行 IBBC の取引違法行為の

疑惑を証拠づけることに2年を費やし、ようやくここだというところに到達した矢先、銀行幹部に会いに行き、戻ってくる同僚が眼前で毒殺されて呆然となるシーンから映画は始まる。＊
インターポール:Interpol フランスに本部を置く国際刑事警察機構

経済機構が多国籍企業となり、グローバルに拡大する 21 世紀。本映画の舞台も、ドイツ・ベルリン、フランス・リヨン、イタリア・ミラノ、アメリカ・ニューヨーク、トルコ・イスタンブールとインターナショナルに広がり、当然のこととして、銀行の金融は国境をこえて取引される。利益を出すための商法上の行為は正当に行われているかどうか。巧妙なマネー・ロンダリングの手口、武器取引への融資禁止を銀行の不正行為とみなすかどうかを事件の深層で問いかけている。

映画全編が経済サスペンスとアクションのエンターテインメントとして組み立てられ、仲間同士の連絡場所に使われるのが有名な美術館である。ベルリン美術館・旧博物館、カーリエ博物館、グッゲンハイム美術館、こともあろうにグッゲンハイム美術館で暗殺グループとの血まみれの銃撃戦が行われるとは…じつに苦笑せざるをえない。しかし、それは別として、1987 年に製作され、株・不動産・高級美術品・会社の M&A を内部から描き出したことでセンセーショナルを引き起こした『ウォール街』*Wall Street* (1987)につぐ、この『ザ・バンク 堕ちた巨象』*The International* (2009)は注目すべき金融フィクション・サスペンス映画である。映画文化の視点で分析すると、エンターテインメントを越える深層真意を捉えたい作品だからである。

本映画から注目シーンとして、次の4つのシーンを取り上げ、小タイトルを付けた。

Scene #01 The Very Essence of Banking Industry 「銀行業の本質」

Scene #02 The Truth Means Responsibility 「真実とは責任を負うこと」

Scene #03 The Boundaries of Your System of Justice 「司法制度の境界線」

Scene #04 The Hardest Thing in Life 「人生で一番つらいこと」

各シーンから抜粋した会話を英語／日本語で記し、さらに語句解説をつけて、7頁以後に掲載してある。交わされている内容は映像表現では不可能だがコトバならば伝わるものをセリフで組み立てている。ぜひこれに注目して本映画を鑑賞していただきたい。



・暗殺者グループと銃撃戦が行われるグッゲンハイム美術館の撮影現場での打ち合わせ



・膨大な資料を基に、違法行為にかかわる人物や暗殺者を絞り込む、推定しようとする
サリンジャー

『ザ・バンク 墮ちた巨像』

原題： THE INTERNATIONAL 製作年度： 2009 年

Directed by Tom Tykwer	監督 トム・ティクヴァ
Screenplay by Eric Warren Singer	脚本 エリック・ウォーレン・シンガー
Music by Tom Tykwer, Johnny Klimek Reinhold Heil	音楽 トム・ティクヴァ ジョニー・クリ メック ラインホルト・ハイル
Film Editing Mathilde Bonnefoy	編集 マティルド・ボヌフォア
Executive Producer: Alan Glazer, Ryan Kavanaugh	製作総指揮 アラン・G・グレイザー、ラ イアン・カヴァノー
Distributor Sony Pictures Entertainment	配給 ソニー・ピクチャーズ エンタテインメン ト
Production Company Atlas Entertainment	製作 アトラス・エンタテインメント
Producer Charles Roven, Richard Suckle, Lloyd Phillips	製作 チャールズ・ローヴェン、リチャー ド・サックル、ロイド・フィリップス
Release Date 4 April 2009 (Japan)	公開 2009 年 4 月 4 日 (日本)
Country USA	製作国 アメリカ
Runtime 117 min	上映時間 117 分
Cast Clive Owen (Louis Salinger) Naomi Watts (Eleanor Whitman) Armin Mueller-Stahl (Wilhelm Wexler) Ulrich Thomsen (Jonas Skarssen) Brian F. O'Byrne (The Consultant) Luca Barbareschi (Umberto Calvini) Georges Bigot (André Clement) Jack McGee (Detective Bernie Ward)	出演者 クライブ・オーウェン (レイ・サリンジャー) ナオミ・ワッツ (エレノア・ホイットマン) アーミン・ミューラー＝スタール (ウィル ヘルム・ウェクスラー) ウルリク・トムセン (ヨナス・スカルセ ン) ブライアン・F・オバーン (コンサルタント) ルカ・バルバレスキ (ウンベルト・カルビー ニ) ジョルジュ・ビゴー (アンドレ・クレマン) ジャック・マギー (バーニー・ウォード警 部)
Official Website	公式サイト

http://www.sonypictures.jp/movies/theinternational/ (Japan)	http://www.sonypictures.jp/movies/theinternational/ (日本)
http://www.everybodypays.com/ (USA)	http://www.everybodypays.com/ (米国)

知っていますか？銀行はあなたの預金を、何に使っているかを...

<Story ストーリー>

インターポール捜査官のルイ・サリンジャーは、国際的な巨大銀行 IBBC の取引に違法行為の疑惑があり、それを暴露することにここ数年間を費やしてきた。

情報収集にやって来たベルリンで、同僚が IBBC 幹部と接触した直後に事故死するのを目撃したサリンジャーは、報告書に書かれたことの矛盾点に気づき、その真偽を確かめるためにルクセンブルグ大公園前にある IBBC 本部に出向く。そこで、銀行幹部のアンドレ・クレマンから情報を得たが、なぜか直ちにドイツ国内での捜査を禁止された。

リヨンのインターポール本部に戻ったサリンジャーはクレマンが不審死したことを知る。新たな情報を入手して、IBBC 銀行本部の頭取スカルセンに会いに向かうが、本人には面会できず、疑惑の根拠となるはずの情報はすべて IBBC 側の都合よいように変えられ、サリンジャーは徒労に終わる。

その頃、ニューヨークでは同僚の女性検事補ホイットマンは、欧州最大の軍事メーカー社長で、次期イタリア首相候補のカルビーニが IBBC 不正取引の重要人物という情報を得た。早速、サリンジャーとホイットマンは社長のいるミラノへ飛び、カルビーニに面会する。そして、社長から IBBC が世界を裏側から支配しようとしている計画を聞かされる。しかし、その直後にこのカルビーニ社長も暗殺される。サリンジャーらは犯人を取り逃がすが、義足とわかる足跡から捜査の手がかりを見つける。

二人はニューヨークへ飛び、犯人を追跡している最中、グッゲンハイム美術館でその男が IBBC 本部で見かけたウェクスラーに会っている現場に出くわす。だが、この直後、義足の男も暗殺団の手で殺される。一方、ウェクスラーは難を逃れ、ホイットマンに保護される。ウェクスラーに面会したサリンジャーは、捜査に協力するように彼を説得する。彼は初心を取り戻し、サリンジャーに協力するが、同時にそれは法の枠を超えることを意味することになることを知らされる。決意したサリンジャーは同僚のホイットマンを守るため、彼女に捜査から手を引かせ、単独で取引の行われるイスタンブールへ向かうのだった。

ウェクスラーの助けを借り、サリンジャーはようやくカーリエ博物館 (Kariye Müzesi) の取引現場で真相と IBBC 頭取スカルセンに近づくことに成功するのだが...

<Characters 登場人物>

The Justice side	正義の側
Louis Salinger: An Interpol agent who has	ルイ・サリンジャー: IBBC について

been investigating the IBBC. Left the Scotland Yard in London for a case seemingly heavily influenced by the IBBC two years ago. Works with Whitman.	長く捜査を続けているインターポール捜査官。IBBC の影響力がする事件で 2 年前にロンドン警視庁を辞めた。ホイットマンと共同で捜査をしている。
Eleanor Whitman: A New York Assistant District Attorney who supports Salinger's investigation. Married with a husband and a son.	エレノア・ホイットマン：サリンジャーの捜査を助ける NY 検事局の検事補。夫と一人息子がいる。
The IBBC side	IBBC の側
Wilhelm Wexler: Skarssen's senior advisor and IBBC's chief security officer as well as the employer of the sniper, the Consultant.	ウィルヘルム・ウェクスラー：スカルセンの側近で IBBC の安全管理の主任であり、暗殺者（コンサルタント）の雇い主。
Jonas Skarssen: The IBBC President. A good father of a son. Assassinated by a hit-man employed by Calvin's sons.	ヨナス・スカルセン：IBBC 頭取。一児のよき父。父を殺されたカルビーニの息子が雇った殺し屋に銃殺される。
The Consultant: Freelance assassin employed by Wexler with one leg artificial who assassinated an IBBC executive, André Clement, Calvin and others that Salinger approached. Killed by a group of hit-men employed by the IBBC.	コンサルタント：フリーランスでウェクスラーお抱えの片足が義足の殺し屋。IBBC 幹部のアンドレ・クレマンやカルビーニ等、サリンジャーが近づいた証人を全て暗殺したが、自らも IBBC の雇った暗殺団に殺される。
Umberto Calvin: The CEO of the largest European arms manufacturing firm that trades with the IBBC in Italy and aspiring Italian prime ministerial candidate. Killed by the Consultant.	ウンベルト・カルビーニ：IBBC と取引のある欧州最大のイタリアの軍事メーカー社長で次期イタリア大統領候補。コンサルタントに暗殺される。

<Comments: シーンと英語の解説>

全体的に長い会話のシーンが少なくなく、個々のセリフも長く、語彙も TV やラジオのニュースや新聞で使用されるレベルのものが多く、中級から上級英語者学習者向けである。

音声的には、クライブ・オーエンのストレートなイギリス英語と、アメリカ英語系ともイギリス英語系とも明確には分け難いナオミ・ワッツのインターナショナルな英語を主に聞ける。

Scene #01 “The Very Essence of Banking Industry 「銀行業の本質」 ”

CALVINI: No. No, no. The IBBC is a bank. Their objective isn't to control the conflict...it's to control the debt that the conflict produces. You see, the real value of a conflict...the true value is in the debt that it creates. You control the debt, you control everything. You find this upsetting, yes? But this is the very essence of the banking industry.....to make us all, whether we be nations or individuals.....slaves to debt. SALINGER: You sound like you're not very fond of the IBBC. What happened? CALVINI: I was fond of André Clement. I trusted him. And he was a good friend. ELEANOR: Then help us make sure he didn't die in vain. CALVINI: Find me after the speech. We can talk in the car on my way to the airport.	カルビーニ : ちがいます。そうではなくて、IBBC は銀行ですから、紛争を自由に操ることが目的ではありません。紛争で出る負債を自由に操るのです。いいですか？紛争の現実的な価値、真の価値は、それが作り出す負債にあるのです。負債を自由に操れば、全てを操れます。お気に召しませんね？ しかし、これが銀行業の本質なのです。国や個人にかかわらず、我々すべてを借金の奴隷にするのです。 サリンジャー : あんたは IBBC をあまり好きではないようだな？何かあったんですか？ カルビーニ : 私はアンドレ・クレメントが好きだった。信用していた。良い友人でもあった。 エレノア : では、彼の死を無駄にしない為にも、私たちに手を貸して下さい。 カルビーニ 演説の後で私を見つけて下さい。空港へ行く途中の車の中で話しましょう。
--	--

Scene 場面:

ニューヨークで捜査中だったホイットマンは、イタリアにある欧州最大の軍事産業メーカーのカルヴィーニ社長が、IBBC について詳しいことを突き止め、サリンジャーを誘って、会社を訪問して、本人から直に話を聞いているシーンである。

Key Words & Phrases キー・ワード&フレイズ :

IBBC (The International Bank of Business and Credit) 「実在した銀行に似せた架空の銀行名」(注 : 1)

gateway 「出入り口」

transaction 「取引」

profit 「利益」

conflict 「紛争」

objective 「目的」

debt 「負債、借金」

in vain 「無駄に」

Notes 補足：

(注：1) 1980 年代から 90 年代にかけて麻薬取引等のスキャンダルを起こしたパキスタン系のイスラム銀行でルクセンブルグ籍の BCCI (Bank of Credit and Commerce International「国際商業信用銀行」)を基にしている。映画の中でのように、実際に CIA やブッシュ家、ビン・ラディン家、「イラン・コントラ事件」等々世界情勢に深い影響を与える組織や人物とも関わりあったらしい。69 カ国に支店があり、東京にもあった。1991 年経営破綻。「犯罪銀行 BCCI」等の書籍も出版されている。

Scene #02 “The Truth Means Responsibility 「真実とは責任を負うこと」 ”

NEW YORK D.A.: But what you need to remember is that there's what people wanna hear, there's what people wanna believe. There's everything else, then there's the truth. ELEANOR: And since when is that okay? I can't even believe you're saying this to me. The truth means responsibility, Bernie! NEW YORK D.A.: Exactly, which is why everyone dreads it! ELEANOR: Look.... The IBBC is using one assassin for all their hits. And we've tracked him here to New York. This guy can bury them. NEW YORK D.A.: They want me to put a gun to your head. You don't find this guy, and I mean quick... ...they're gonna make me pull the trigger.	NY 検事： しかし、覚えておかなければならないのは、人が耳を傾けたいことがあり、信じたいことがある。だが、その他のこともあり、そして、真実もある。 エレノア： そんなこといつからなの？私にそんなことをいうなんで信じられない。真実というのは責任を負うことよ、バーニー！ NY 検事： その通りだ。だから皆が恐れる！ エレノア： ねえ。IBBC の連中はひとりの暗殺者を使って殺しを全部やらせているわ。それで、私たちが彼をここニューヨークへ追い詰めたの。この男はぜんぶやれるの。 NY 検事： 彼らは私に君の額に銃を突きつけさせたがっている。この男を見付け出さなければ、すぐにでも、私に引き金を引かせるつもりだ。
---	--

Scene 場面：

ホイットマンが、自分のオフィスで椅子に座りながら捜査から手を引かせようとする同僚のバーニー検事と話しているシーンである。

Key Words & Phrases キー・ワード&フレイズ：

responsibility 「責任」

dread 「恐れる」

trigger 「引き金」



- ・ ウェクスラーに協力するようにと、説得するサリンジャー。

Scene #03 “The Boundaries of Your System of Justice 「司法制度の境界線」 ”

WEXLER: I know who you are. SALINGER: Course you do. I was at the Guggenheim this afternoon. The assassin you met with... I know you were his handler. And I know that you arranged for him to be killed at the behest of the bank because I was obviously getting too close. But if a hit team at the Guggenheim is what happens because I was getting too close to him...what do you think the bank's gonna do when it realizes how close I am to you? WEXLER:	ウェクスラー： 私は君のことを知っている。 サリンジャー： もちろんだろ。オレは、グッゲンハイム美術館に今日の午後いた。あんたが遭った暗殺者は、あんたのお抱えだったことを知っているよ。それから、あんたが銀行の命令であの男が殺されるように仕向けたことも。なぜならオレが明らかに近づきすぎたからだ。だが、もしも、オレが奴に近づきすぎたことが理由でグッゲンハイム美術館での暗殺を起こすとなると、どれだけオレがあんたに近づいているかを銀行が気付いたら、銀行はどうすると思う？ ウェクスラー：
--	--

Death comes for us all, Agent Salinger. SALINGER: Yeah, but based on everything I've read about you, you seem like the kind of man who aspired to die for something more than this. WEXLER: Well, this is the difference between truth and fiction. Fiction has to make sense. SALINGER: I'm confused, colonel. Why would a tried and true Communist...a hardliner that spent thirty years in the Stasi fighting against the evils of capitalism.... Why would this man waste his final days working for an institution that was the very embodiment of everything he once despised? You dedicated your life to the Communist ideal. You sacrificed everything for the good of the party. For what? You lost your wife to betrayal, your daughter to suicide...and when the Wall fell, your whole life fell apart with it. WEXLER: You know nothing about me. I was lost long before the Wall fell. I was once destined to become a man much like yourself. Truehearted, determined, full of purpose. But character is easier kept than recovered. We cannot control the things life does to us. They are done before you know it. And once they are done, they make you do other things. Until, at last, everything comes between you and the man you wanted to be.	死は我々すべてに訪れるものさ、サリンジャー捜査官。 サリンジャー： そうだよ、だが、オレが読んだあんたに関する全ての報告書によると、あんたはこんなことよりもっとましなことを熱望しているタイプの男のようだ。 ウェクスラー： これが真実とつくり話の違いだ。つくり話は筋が通っていないからならない。 サリンジャー： わからないよ、大佐。苦難を乗り越えてきた本物の共産主義者で、東ドイツの国家保安警察で資本主義の悪との戦いに 30 年間も費やした強硬路線支持者が…、何故あんたみたいな男が、かつて軽蔑したことの全てを具現化する機関のために働いて、自分の最後の日々を無駄にしようとするのか？あんたは共産主義の理想に自分の人生を捧げた。党の利益のために全てを犠牲にした。何のために？ 妻は裏切りで失い、娘も自殺で失った。そして、ベルリンの壁が崩壊した時、あんたの人生もそれと共に崩れ落ちた。 ウェクスラー： 君は私について何も知っていない。壁が崩壊するずっと前から途方に暮れていた。私自身はかつて君のような男になる運命にあった。忠実で、決然としていて、目的意識に満ち溢れていた。しかし、性格というのは再生されるより、維持される方が容易い。人生が我々になすことを抑制できない。知る前にすでになされている。そして、一度なされたら、他の事も。ついに、全てが自分か自分のなりたかった人間かの間で選ばなければならなくなるまで続く。
---	--

SALINGER: No. We all have choices in life. You made yours. Sometimes a man can meet his destiny on the road he took to avoid it. Skarssen and that bank need to answer for what they've done. They have to be brought to justice. You can help me do that. WEXLER: Justice? It's not possible. SALINGER: Why not? WEXLER: Because, Agent Salinger, your idea of justice is an illusion. Don't you understand the very system that you serve and protect will never allow anything to happen to Skarssen or the bank. On the contrary, the system guarantees the IBBC's safety because everyone is involved. SALINGER: What do you mean, "everyone"? WEXLER: Hezbollah. CIA. The Columbian drug cartels. Russian organized crime. Governments of Iran, Germany, China, your government. Every multinational corporation, everyone. They all need banks like the IBBC so that they can operate within the black and gray latitudes. And this is why your investigative efforts have either been ignored or undermined and why you and I will be quietly disposed of before any case	サリンジャー : ちがう。我々はみな人生に選択肢を持っている。あんたは自分で選んだ。時には、人は避けるつもりで進んだ道で、自身の定めに出会うこともある。スカルセンとあの銀行は、奴らがやったことへの答えを出さなければならないんだ。奴らは裁かれなければならない。あんたはそれが出来るようにオレに協力できる。 ウェクスラー : 裁き？それは無理だな。 サリンジャー : なぜ無理だ？ ウェクスラー : なぜなら、サリンジャー捜査官、君の正義は幻想だからだ。わからないかな、君が捧げて、守っているまさにその組織は、スカルセンやあの銀行に何かが起こることをぜったいに許さないってことが。逆に、あの組織が IBBC の安全を保証しているんだ、それは皆が関わっているからだ。 サリンジャー : 「皆」とはどういう意味だ？ ウェクスラー : ヒズボラ。CIA。南米の麻薬カルテル。ロシアの犯罪組織。イラン、ドイツ、中国、君の国の政府。あらゆるすべての多国籍企業。彼等はみな IBBC のような銀行を必要としている、だから、不正ギリギリの線で取引できる。 そして、これが君の捜査の苦労が無視されるか、あるいは邪魔されるかするわけで、それから、この銀行の違反事件が裁判沙汰になる前には、君と私は静かに片付けられてしまうわけだ。
---	--

against the bank ever reaches a court of law. SALINGER: So what are we all supposed to do? We just supposed to give up and accept that this is the way of the world? I'm not gonna do that. I still believe, I know, that there has to be a way to bring down this bank. And you are gonna help me. WEXLER: You understand...if you really want to stop the IBBC, you won't be able to do it within the boundaries of your system of justice.	サリンジャー : じゃあ、我々は何をすることになる？諦めて、これが世の中だと受け入れろというのか？オレは諦めない。オレは信じる。この銀行を撃ち落とす方法があると思う。それも、あんたが助けてくれることになれば。 ウェクスラー : どうしても IBBC に止めさせたいなら、既存の司法の範囲内では無理だということは分かるね。
--	--

Scene 場面:

美術館での銃撃戦の後、サリンジャーはホイットマンに連れられてある場所に来る。その小部屋には捕らえられたウェクスラーが座っていた。ここはサリンジャーが IBBC を潰すことに協力してもらうためにウェクスラーを説得しているシーンである。

Key Words & Phrases キー・ワード&フレイズ :

the Guggenheim 「グッゲンハイム美術館」(注 : 1)

assassin 「暗殺者」

handler 「扱う者」

behest 「命令、指令」

realizes 「気がつく」

Communist 「共産主義者」

hardliner 「強硬派主義者」

Stasi 「(旧東ドイツの) 国家保安警察、シュータージ」

Capitalism 「資本主義」

embodiment 「実体化」

despised 「軽蔑する」

dedicated 「身を捧げた」

sacrificed 「犠牲にした」

the Wall 「(東西を分けていた旧ドイツ・ベルリンの) 壁」

destined 「運命にあった」(注 : 2)

destiny 「運命」

justice 「正義、公正、裁判」

guarantees 「保証する」

Hezbollah 「ヒズボラ、レバノンのイスラム教シーア派過激組織」

multinational corporation 「多国籍企業」

undermined 「土台を崩す、衰えさせる」

disposed 「処理された、かたづけられた」

Notes 補足：

（注：１）正式には「グッゲンハイム美術館（Guggenheim Museum）」ソロモン・R・グッゲンハイム財団が運営する美術館で 1937 年 ニューヨーク市に設置後、イタリア、ドイツその他の国々にも展開中。

（注：２）年老いたウェクスラーは人生に対し、”We cannot control the things life does to us.”などと力無く、受身的とも取れる考えを持っている。それに対して、若いサリンジャーは、「人生の選択肢は責任をもって自分で選ぶものだ」と次のセリフで主張する。そこで、ウェクスラーが使った **destined** を **destiny** と変えて、スカルセンや銀行の果たすべき責任についても主張する。

Scene #04 “The Hardest Thing in Life 「人生で一番つらいこと」 ”

SALINGER: That relic in there is looking for redemption. I'm the only one who can give it to him. ELEANOR: Then who gives it to you when this is all over? SALINGER: You need to cut me loose. Tell 'em I escaped from your custody. Tell 'em whatever you have to. Just use my history, they'll believe you. ELEANOR: I don't know. SALINGER: Ella, listen to me. Sometimes the hardest thing in life is to know which bridge to cross and which to burn.	サリンジャー： あそこのあの爺さんは罪のあがないをしようとしている。それを与えられるのは、オレだけだ。 エレノア： じゃあ、これがみんな終わったら、誰があなたに罪のあがないをするの？ サリンジャー： オレの自由にさせてくれ。オレは君の拘束から逃げたと伝えてくれ。君が必要なことは全て言ってくれ。オレの経歴を使ってくればあいつ等は君を信じるだろう。 エレノア： そうかしら。 サリンジャー： エレノア、聞いてくれ。人生で時々一番つらいことは、どの橋を渡って、どの橋を焼くかを知ることだ。
---	---

Scene 場面：

ここは、サリンジャーが小部屋でウェクスラーを説得した後、部屋を出てホイットマンに捜査からは手を引くように説得するシーンである。

Key Words & Phrases キー・ワード&フレイズ：

relic 「遺物、面影」(注：1)

looking for 「探す」

redemption 「救い、罪のあがない」

The hardest thing in life is to know which bridge to cross and which to burn. 「人生で一番難しいのはどの橋を渡り、どの橋を焼くかだ。」(注：2)

Notes 補足：

註1 ここでは擬人化させており、ウェクスラーのこと。

註2 デイヴィッド・ラッセル (David Russell) の引用。スコットランド出身のクラシック・ギタリストで 1953 年 6 月 1 日生まれ。



・ウェクスラーの暗殺を目にしたサリンジャーは単独でイスタンブールの路地から屋根上へと標的を追い詰めて行くのだが…

ザ・バンク THE BANK 堕ちた巨像

4月4日(土)、丸の内ピカデリーほか全国ロードショー！

配給：ソニー・ピクチャーズ エンタテインメント

<http://www.sonypictures.jp/movies/theinternational/> (日本)

英日対訳表作成者：東海林康彦（映画英語アナリスト）・塚田三千代（映画アナリスト）